名古屋大学五十年史編集のこと

元専任編集室員　片岡弘勝

私は、一九九〇年四月から一九九四年三月までの四年間、名古屋大学史編集室に専任助手として勤務させていただいた。この期間は写真集を作成し通史第一次原稿を稿本としてまとめる時期となった。通史編集途中で転勤することになり、編集委員会ならびに編集室にご迷惑をおかけし、まことに申し訳ない気持ちを残したままであった。このたび通史編集を完遂してくださった前記関係者にまずはじめに心よりお礼申し上げたい。五十年史編集事業に関する回想記事を本紀要に寄稿を、との要請を編集室よりいただいたので、専任室員が経験した編集作業の一コマとして以下の三点を述べさせていただくことにする。

印象に残っていることの第一は、やはり大学史資料の収集に関わることである。名古屋大学は多くの部局から成る大学であるためか、大学史編集にとって重要な資料が建物の移転、建て替えおよび職員の交替に伴って散逸してしまう例が少なくなく、編集作業にとって小さくない困難があった。どうしても一次資料が確定できない場合はそれを補う資料を見つけ論拠を構成しなくてはならないが、歴史記述に曖昧さが残ってしまう。とはいえ、このような状況の中で非常に多くの卒業生、旧現教職員の方々から暖かいご協力をいただき、貴重な大学史資料を得ることができたことが大きな救いであり、励ましであった。

こうした資料収集の仕事に携わったため、今後は他大学と同様、百年史あるいは七十五年史という将来の節々に備えて、一定の年数を経た大学史資料のうち可能なものについては一括して収集、保管、そして整理を行う全学シ

ステムが整備されることが重要であると痛感した。労力、経費、時間の面で厖大な負担が軽減されるからである。在職中には大学史に関するレファレンスが日々学内外から数多くもたらされることにも驚いたが、こうした大学史資料の収集・保管・整理システムはこのレファレンス業務および大学自己点検・評価の基礎にもなるであろう。

第二には、資料収集の過程で様々な卒業生、旧現教職員の方々とお会いでき大変お世話になったことである。これらの方々に心よりお礼申し上げたい。なかでも私個人は牧島久雄先生から、外国人留学生後援活動、伊勢湾台風被害と救援活動および八高関係写真等について懇切に資料提供ならびにご教示をいただく等、ひとかたならぬお世話をいただいた。牧島先生にお会いできることを楽しみに愛知国際留学生会館に通ったものであった。牧島先生に深く感謝申し上げたい。

第三は、通史編集に際して名古屋大学と全国的動向との関わり、なかでも名古屋大学の内部から全国に向けて情報発信あるいは問題提起を行った動きをどの程度まで描けるか、という課題についてである。在職中こうした要望を耳にすることが少なくなかった。私が第一次原稿の執筆を担当した部分でも私なりに努力したが、易しくない課題であった。しかしこの課題に関わる一例として、旧制大学から新制大学に移行する時期の大学管理法問題の渦中、ユニークな対案であった日本学術会議第二委員会の案が名古屋大学理学部関係者作成案を基礎として作られた事情を不充分ながら、ある程度明らかにし、日本の大学管理問題史上重要な史料を位置づけることができたと思われる。長期間探し回った末ようやく「名古屋大学理学部案」の現物を発見し、一度は書き終えていた原稿を脱稿直前に大急ぎで書き直したときは大変感激した記憶がある。

（香川大学助教授）